

鹿児島湾奥の二枚貝（ヒオウギガイ）養殖への支援

始良・伊佐地域振興局 林務水産課

【背景・目的】

鹿児島湾の湾奥部に位置する当管内では、静穏な海域を活かし平成25年度からアサリ、イワガキの二枚貝養殖が行われ、その生産量は緩やかではあるが増加しており、漁家所得の向上の一助となっている。今回、新たな二枚貝養殖対象種としてヒオウギガイに着目し、試験養殖を行い当管内海域で養殖可能か検討を行った。

なお、養殖用資材等の購入、施設の設置については、ポストコロナ農業生産体制革新プログラム事業を活用し、種苗導入（R3. 11. 4：1,000個）も含めて令和3年度中に実施した。

【普及の内容・特徴】

1 試験実施場所

鹿児島県錦海支所地先海域（図1）

2 養殖方法

はえ縄カゴ垂下式養殖

3 試験実施期間

R3年度導入種苗：R3. 11. 4～R5. 2. 22，R4年度導入種苗：R4. 11. 22～継続中

【成果・活用】

成長、生残は図4に示すとおり。試験開始当初は、順調に成長し大きなへい死等は見られなかったが、令和4年9月に鹿児島に上陸した台風14号の影響で、養殖カゴの半分程度が海底（40～80m）に沈んでしまった。その後、12月に回収したが、すべてのカゴを回収することはできなかった。また、海底から引き上げた貝の中には、貝殻に大きな段差が付いた個体が多数見られ（図5）、深い場所での養殖が大きなストレスとなったと考えられた。

しかし、最終的な測定結果は表1のとおりで、種苗導入から約15ヶ月で出荷サイズまで成長することが確認でき、生残率も60.4%であった。台風による影響が無かったと考えた場合、さらなる高成長、高生残率が望めたと思われるため、当海域でもヒオウギが養殖は十分可能であると考えられた。

なお、本試験の結果を踏まえ、台風対策として施設（アンカー）の強化等などの改良を行い、令和4年11月に新たな種苗3,000個導入し二回目の試験養殖を開始した。

今後は、現地に適した養殖技術に改良していくと共に、令和5年9月には養殖免許を取得予定であり販売が可能となることから、ヒオウギガイの販売方法等についても検討していく必要がある。



図 1 : 養殖試験実施場所



図 2 : 養殖施設設置状況



図 3 : モニタリング調査実施状況

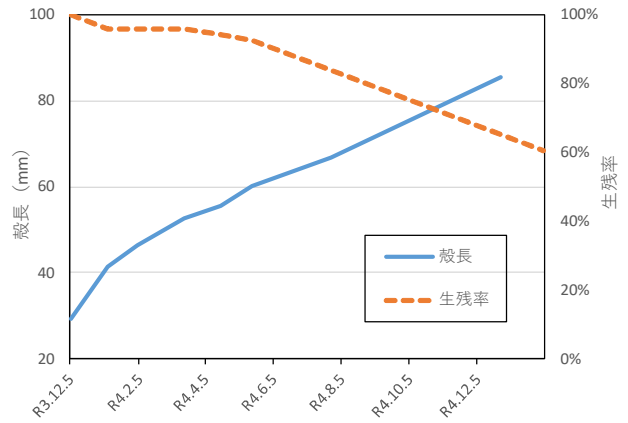


図 4 : 成長 (殻長), 生残率の推移



図 5 : 段差の付いた貝

サイズ	個数	割合
85.1mm以上	99	16.4%
75.1~85mm	239	39.6%
65.1~75mm	165	27.3%
65mm以下	101	16.7%
合計	604	100.0%

表 1 : 取上時のサイズ別個数, 割合